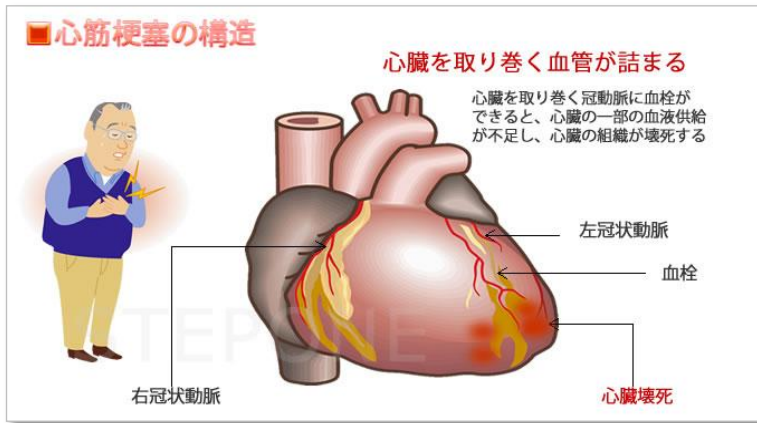
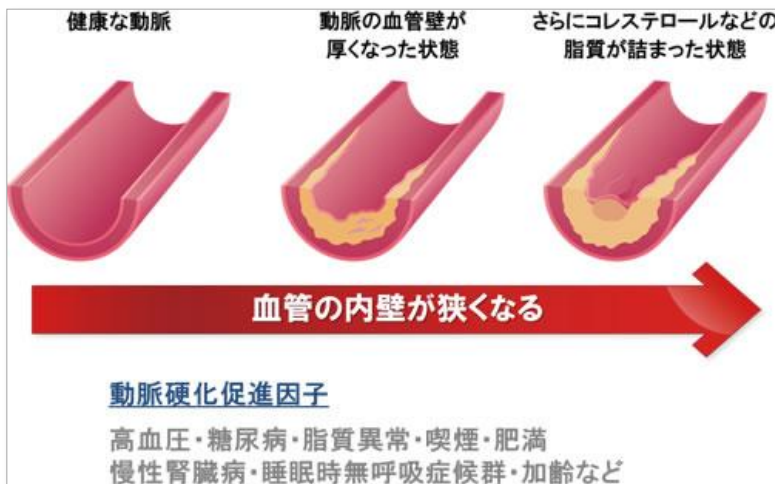


**週刊 タバコの正体**

皆さん「心筋梗塞」という言葉を知っていますか。「しんきんこうそく」と読むのですが、心臓のまわりの動脈血管がつまって血液が流れなくなる病気の名前です。



Healthil「健康管理」サイトから



阪和記念病院ホームページから

「動脈硬化」が進行する原因には、高血圧や糖尿病などがあげられますが、なんと“喫煙”も影響することがわかっています。タバコは血管にダメージを与えるのは医学的には常識なのですが、一般にはあまり知られていません。

一旦、タバコを吸い始めてニコチン依存症になってしまうと、ニコチンを補給するために有害な煙を吸い続ける日々を送ります。外見上は何も異常がない毎日でも、気付かないうちに血管が痛んでいるわけです。……そして、何十年か後のある日突然、血管がつまり、激痛とともに命に関わる緊急事態に陥るかもしれません。

そんな事態になる可能性を知りながら、あえてタバコに手をだす必要はありません。

血液が流れなくなった心臓の筋肉(心筋)は壊死し動かなくなります。つまり心臓が止まる病気ですから、生命に関わる緊急事態です。一刻も早い処置が必要とされるのですが、ある日突然発症するケースがほとんどなので、対応が遅れ死亡にいたる場合もあります。

もうひとつ、「動脈硬化」(どうみやくこうか)という言葉も紹介します。左の図のように動脈の血管にコレステロールなどが詰まったりして内壁が狭くなる病気の名前です。

じつは「心筋梗塞」と「動脈硬化」は非常に関連性があり、動脈硬化が進行すると血管が詰まる確率が高くなります。すると、当然心臓の血管も詰まる確率が高くなるわけです。

産業デザイン科 奥田 恭久